

1 学校運営の中期目標

現状と課題

学習指導要領が、令和2年度から全面実施され、令和4年に大阪市教育振興基本計画が策定され4年目を迎える。本市の児童は全国学力・状況調査の結果から自尊感情が低いことが顕著に見られる。また、学習においては「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、誰一人取り残さない学力を保障するための「個別最適化された学び」、ICT端末を有効に活用した調べ学習や話し合い活動を重視する「協働的な学習」など、児童の実態を見極め、令和の時代の新しい学び方を研究していくことが必要である。

本校の児童は、明るく素直な児童が多く同学年、異学年の「なかま」を大切にする意識が育っている。しかし、自尊感情が低い児童も一定数いるので自分自身のいいところみやそれぞれの児童に教員が寄り添うことが大切である。学習面では、自分の考えを深め表現する力も育ってきている。また、学習規律が確立され、環境も整備されている。全国学力学習状況調査でも全国平均正答率を上回っているが、一部の児童は学習の定着に課題があるといえる。児童同士が課題解決に向けた活動を通して、様々な意見を取り入れ、練り上げていくような協働学習を深めていくことが継続的な課題である。日々の学習を理解することはできても、そこから新たなものを導き出そうとする機会を十分に与えていくよう工夫をしていかななくてはならない。学校経営方針を「子どもの思いに寄り添い、個に応じた可能性を育む教育を創造する。」とし、協働学習を取り入れながら、「自ら学ぶ」子どもを育成に取り組んでいるところである。

【安全・安心な教育の推進】

○児童や保護者アンケートの結果から、自己肯定感・人権意識・規範意識に関する項目について、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合80%以上を維持する。(R.6 児童94%、保護者96%)

○児童や保護者アンケートの結果から、あいさつ・仲間づくりに関する項目について「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合80%以上を維持する。(R.6 児97%、保81%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】※小学校学力経年調査(3～6年対象)

○全教員が公開授業を年1回以上行い、児童や保護者アンケートの結果から、授業理解に関する項目において「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合80%以上を維持する。(R.6 児94%、保96%)

○全国学力・学習状況調査の国語・算数の正答率の全国平均より5ポイント以上を維持する。(R.6 6.45%)

○小学校学力経年調査における国語・算数の正答率が市平均の7割に満たない児童の割合をいずれの学年も20%以内とする。(R.6 20%以内)

○児童や保護者アンケートの結果から、運動に関する項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合85%以上を維持する。(R.6 児童86%、保85%)

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である握力・反復横跳び・立ち幅跳びの平均の記録を全国平均と同等以上にする。(男女共にほぼ同等であった。)

【学びを支える教育環境の充実】

○学習用端末を利用した家庭学習を週1回実施する。

○働き方改革を推進し、自主研修の時間を週に1回(2時間程度)設定・実施する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。（R.6 96%）
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ①児童アンケートの結果から、自己肯定感に関する項目について、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合85%以上を維持する。（R.6 87.4%）
- ②児童や保護者アンケートそれぞれの結果から、あいさつに関する項目について「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合80%以上を維持する。（R.6 児97% 保81%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校の学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。（R.6 52%）
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。（R.6 国75% 算76%）
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強が好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。（R.6 87%）
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強が好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。（R.6 77%）
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。（R.6 65%）

学校園の年度目標

- ①主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善の観点から、全教員が公開授業を年間1回以上行い、小学校学力経年調査における授業に関する項目について「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する児童の割合前年度以上を維持する。（R.6 82.4%）
- ②児童や保護者アンケートの結果から、運動に関する項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合前年度以上を維持する。（R.6 児86% 保85%）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・学習用端末を活用した学習を毎日実施する。
授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。{ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く}（R.6 65%）
- ・ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

学校園の年度目標

- ①学習用端末を活用した活動を毎日実施する。
- ②働き方改革を推進し、ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

3 本年度の自己評価結果の総括

自己評価結果の総括

文部科学省の中央審議会が令和7年9月5日に次期学習指導要領の素案である「論点整理」を公表した。次期学習指導要領を受けて2028年に第5期教育振興計画が作成される予定である。この「論点整理」には「自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度やメタ認知が必要である。」とされている。自尊感情を高める手立てが大切であるといえる。本市の児童は全国学力・状況調査の児童質問項目の結果から自尊感情が低いことが顕著に見られるが本年度においては、肯定的な回答が83.4%から86.9%になっている、全国と同じ数値となっている。本校の児童は、明るく素直な児童が多く同学年、異学年の「なかま」を大切にできる意識が育っており、自尊感情も高くなってきている。学習面では、令和7年度全国学力学習状況調査では国語と算数は全国平均正答率を上回っているが、理科は下回っている。論点整理では、「深い学びの実装」が基盤であると考えられている。そのためには「確かな知識」の習得、資質・能力育成の具体化・深化、「好き」を育み「得意」を伸ばすことが重要であるとされている。理科の学習で、事象に対し興味・関心などの好奇心や疑問を持たせることが必要である。今後も学校経営方針の「子どもの思いに寄り添い、個に応じた可能性を育む教育を創造する。」を起点とし様々な面で児童の伸長を育んでいきたい。

【安全・安心な教育の推進】

○本年度の児童や保護者アンケートの結果は、自己肯定感・人権意識・規範意識に関する項目について、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合が90.5%だった。(R.6 87.4%→R.7 90.5%)

○本年度の児童や保護者アンケートの結果は、あいさつ・仲間づくりに関する項目について「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合80%以上だった。(R.6 児97%、保81%→R.7 児91%、保84%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】※小学校学力経年調査(3～6年対象)

○全教員が公開授業を年1回以上行い、児童や保護者アンケートの結果から、授業理解に関する項目において「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合80%以上を維持できた。(R.6 児94%、保96%→R.7 児95.7%、保96%)

○全国学力・学習状況調査の国語・算数の正答率の全国平均より5ポイント以上を維持した。(R.7 3年国8↑算2↑、4年国7.5↑算12.4↑、5年国11↑算13↑、6年国0.6↓算13.8↑)

○小学校学力経年調査における国語・算数の正答率が市平均の7割に満たない児童の割合をいずれの学年も平均すると20%以内とだった。

(3年国5%算25%、4年国11%算13%、5年国5%算20%、6年国21%算4%)

○児童や保護者アンケートの結果から、運動に関する項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合85%以上を維持できなかった。(児77%、保74%)

○令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、特に課題である握力で男子は55.9、反復横跳びは46.6、立ち幅跳びは39.8で、全国と比べて握力以外は下回った。女子の反復横跳びは50.2と全国を少し上回っており、握力は47.6、立ち幅跳び43.5で全国を下回っていた。(全国のT得点50を標準とする。)

【学びを支える教育環境の充実】

○学習用端末を利用した家庭学習を週1回実施している段階である。

○働き方改革を推進し、自主研修等の研鑽ができるようになってきている。

大阪市長 森之宮小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。(R.6 96%) ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <p>①児童アンケートの結果から、自己肯定感に関する項目について、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合85%以上を維持する。(R.6 87.4%)</p> <p>②児童や保護者アンケートそれぞれの結果から、あいさつに関する項目について「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合80%以上を維持する。(R.6 児97% 保81%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめを許さない学級・学校づくりを目指して、「いじめについて考える日」やアンケート等を活用し、実態把握といじめを許さない集団づくりに努める。</p> <p>指標 いじめアンケートを年3回、「いじめについて考える日」を年1回以上の校長講話や学級で考える活動、「なかま集会」を2回実施する。</p>	B
<p>取組内容②【2 豊かな心の育成】</p> <p>児童会を中心に「あいさつ運動」を実施したりして、自ら進んで気持ちの良いあいさつができるように指導する。</p> <p>指標 あいさつへの意識を高めるため、「あいさつ運動週間」を年3回実施する。</p>	A
<p>取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>互いに認め合う集団活動をめざし、助け合い高めあうことのできる活動の工夫と充実により、児童の自尊感情や自己有用感を高める。</p> <p>指標 児童アンケートの結果から、自己肯定感に関する項目について、肯定的な回答をする児童の割合80%以上を維持する。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 3学期のいじめアンケートの実施を除き指標は達成できている。少人数の学校なので、学年をまたがった交流も普段からみられており、みんなで仲良く過ごそうという雰囲気強い。集会等の取り組みも定期的に行われており、外国人籍の児童に対しても優しく声かけ</p>	

を行う様子が顕著にみられる。いじめを許さない学級・学校づくりを目指して取り組むことは十分にできている。以上のことから、総合的な評価を B とする。

② 指標は達成できている。運営委員会であいさつレンジャーを構成し、「あいさつ運動」に取り組んできたこともあり、児童のあいさつの意識については高まりをみせている。設問⑩「自分からあいさつ（おはよう・さよならなど）ができている。」の項目については児童、保護者ともに「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合は 80%以上であった。以上のことから、総合的な評価を A とする。（R.6 87.4%→R.7 91%）

③ 指標は達成できている。児童アンケートの設問⑬「自分には、よいところがある。」の項目について「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合は、90.5%であった。各学年で工夫し、様々なことに取り組むことで、児童の自尊感情は高まりを見せている。以上のことから、総合的な評価を A とする。（R.6 87.4%→R.7 90.5%）

④ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にすることができなかった。（R.6 96%→R.7 80.85%）

次年度への改善点

① 今後も、児童の実態に応じて様々な取り組みを行っていく。児童が気持ちよく毎日を過ごすことができるよう、校内全体で情報の共有をはかり、安全・安心な教育環境にしていく。

② このアンケート結果からも、あいさつ運動を学期に 1 回行う取り組みは今後も続け、すすんで行うあいさつを、教職員から児童に啓発することも継続して取り組んでいく。

③ 今後も肯定的な回答をする児童の割合を、高水準で維持するために、児童が認められたと感じることができるような取り組みを、学校や地域を通じて行っていく必要がある。教職員からの声かけも児童の自尊感情には大きく繋がると思うので、一丸となって取り組んでいく。

④ 児童朝会や授業の中で「いじめは許されない」ということを指導士たり、日々児童同士がお互いを認め合える環境づくり、クラスづくりを行ったりしていく。

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。(R.6 52%) ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。(R.6 77%) ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上にする。(R.6 65%) <p>学校の年度目標</p> <p>①主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善の観点から、全教員が公開授業を年間 1 回以上行い、小学校学力経年調査における授業に関する項目について「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する児童の割合 80%を維持する。(R.6 82.4%)</p> <p>②児童や保護者アンケートの結果から、運動に関する項目において、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答する者の割合 80%以上を維持する。(R.6 児 86% 保 85%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>本校の児童の実態をつかみ、主体的・対話的な深い学びの実現に向けて、自分たちで立てた課題の解決に向けて、協働学習を通して学びを深める。</p> <hr/> <p>指標 友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【5 健やかな体の育成】</p> <p>子どもの困り感に目を向け、体育科等において、体幹や体の感覚を意識した体づくりを行い、運動好きになる子どもの育成に努める。</p> <hr/> <p>指標 運動に関する児童アンケートで、肯定的な回答をする児童の割合 80%以上を維持する。</p>	C
<p>取組内容③【5 健やかな体の育成】</p> <p>特別活動や保健等の授業を通して、自らの健康や食について関心をもち、よりよい生活を送ろうとする子どもの育成に努める。</p> <hr/> <p>指標 健康に関するアンケートで、肯定的な回答をする児童の割合 80%以上を維持する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 肯定的な回答は90%以上であり目標を上回って達成できた。
主体的・対話的な深い学びの実現に向けて、課題をどう解くのか、全体での見通しを丁寧に行うことで、児童は自分なりの考えを書き、ノートやワークシートを活用して考えを交流することができた。友達の考えに共感したり違う考えに気づいたりして、自分の考えを深め広めることができた。(R.6 94.5%→R.7 96%)
- ② 肯定的な回答は72%であり、目標を達成できなかった。(R.6 児86% 保85%→R.7 児72% 保74%)夏は熱中症アラートが頻繁に発令されたため、外遊びができる機会が減った。そのことが原因で、目標を達成できなかった可能性がある。耐寒なわとびや耐寒かけあしは、全職員の働きかけと運動委員会児童による活動で、カードの活用を図り、児童一人ひとりが自分の目標をもって主体的に取り組む活動ができた。しかし、活動前にアンケートをとっているために、その効果は反映されていない状態である。
- ③ 肯定的な回答は80%以上であり達成できた。(R.6 93.8%→R.7 91%)
全校朝会での指導や給食委員会の劇などによる啓発活動、養護教諭による保健だよりや保健室前の掲示、給食調理員による献立表などにより、自らの健康や食について関心の高まりがみられた。
特別活動や保健などの授業などを通して、生活習慣を見つめなおし、より良い生活を送ろうとする子供の育成に努めることができた。
- ④ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は昨年度以下だった。(R.6 52%→R.7 42.9%)
- ⑤ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全市比を、同一母集団において経年的に比較したところ学年によって平均正答率に近いものがあつたもののほとんどが3ポイント以上で上回っていた。
- ⑥ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が前年度より減っている。(R.6 77%→R.7 65%)
- ⑦ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にならなかった。(R.6 65%→R.7 57.8%)

次年度への改善点

- ① 今後も、課題を解く際の見通しを児童が自分の考えを持てるようなものにしていく。また、ペア、グループ学習などで、考えを共有する機会を引き続き確保する。
- ② 外で楽しく遊ぶための方法を担任が提案したり、可能なら一緒に遊んだりして、健やかな体の育成を図る必要がある。
- ③ 家庭の状況次第で健康に関するアンケート結果が変わるので、家庭と連携をとって健康や食について関心を高めていく。
- ④ 「伝える力」を成就していく。そのために授業中に自分の考えを整理したり、相手に分かりやすく順序だてて説明したり、できるようにする。
- ⑤ 小学校学力経年調査の国語および算数の平均正答率の対全市比に対し、上回っているものが多かった次年度も引き続き児童にとって分かる授業を行っていく。
- ⑥ 外国語（英語）が好きになるように授業の見直し、工夫、教材研究を行い、児童のにとって分かりやすい、親しみやすい、楽しい学習になるように取り組んでいく。
- ⑦ 運動に関する取り組みを見直し、児童にとって体を動かすことの楽しさ、運動をすることでの達成感、成就感を味わわせるようにしていく。

大阪市立 森之宮小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>【ICTの活用に関する目標を設定する】</p> <p>・学習用端末を活用した学習を毎日実施する。授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。{ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く}</p> <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <p>・ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>①学習用端末を活用した活動を毎日実施する。</p> <p>②働き方改革を推進し、ゆとりの日を週に1回設定・実施する</p>	<p>B</p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DXの推進】</p> <p>日々の学習や朝の活動等を通して、学習用端末の活用に慣れる。</p> <hr/> <p>指標 児童アンケートのICT教育に関する項目で、肯定的な回答をする児童の割合80%を維持する。</p>	<p>A</p>
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>これまでの学校運営を総括して働き方改革を推進し、Work-Lifeバランスを重視した組織づくりに努める。</p> <hr/> <p>指標 ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</p>	<p>B</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 指標は上回って達成できた。</p> <p>全市目標は、児童用端末の切り替えが重なっており、心の天気を実施できない時期があったが、1,2学期で67%になっており、児童用端末の整備が完了した2学期だけでは87%に達していることから、3学期も達成する公算が高いと思われる。</p> <p>校内指標の児童アンケートでは、肯定的な回答をしている児童が95%に達していた。以上のことから、総合的な評価をAとする。</p> <p>また、端末活用率は前年度より上回っている。(R.6 62%→R.7 67%)</p> <p>② 指標は達成できた。</p> <p>ゆとりの日を毎週水曜日に設定し、またそれ以外の日も6時頃には帰るようになってきている。業務の精選の効果がでてきているものと思われる。</p> <p>以上のことから、総合的な評価をBとする。</p> <p>今年度の時間外勤務時間では、30時間以下が増加していることから教員全体の勤務時間が減少している。(R.6 88.9%→R.7 94.4%)</p>	

次年度への改善点

- ① 児童用端末の持ち帰り、情報モラル教育・情報活用目標の明確化、体系化が進んでいるので、その目標を達成できるように学校としての取り組みを進めていきたい。前年度から活用実施日のポイントが上がっているので、継続していきたい。
- ② 時数超過（特に低学年）が見込まれるので、時数の調整が必要だと意見が出た。2学期の開始日調整や、月に1回児童が給食後下校にするなどが考えられる。また、天候や安全面、管理体制の観点から、水泳の外部委託を検討していただきたいとの意見も挙がった。さらに、出勤の時間8：30前に児童が教室にいる状況が、安全面から危険ではないかとの意見も挙がった。働き方改革には、多大な労力がかかる場合が多いが、小学校教員の倍率が2倍となっている今、魅力的な職場環境になるよう、長期的な視点を持って取り組んでいく必要があるのではないかと考える。